

Inter Design '85 Kyushu



「非西洋文化的発想」で日本の根っ子を探る。



独特なユーモアで会場を湧かせた日下議長のあいさつ。



熊本の歴史文化が討議された。「石と鉄と火の文化」。



米井・榎本両氏の司会によるリレー講演。有名講師の登壇が続き、聴衆を飽かせない。

会議のメインイベントは、光ファイバーやエレクトロニクス技術を駆使し、熊本・大分両会場を結んで行われたTV会議「九州フォーラム・二十一世紀の九州もん」。近い将来の会議を思わせるこのイベントには、両県の知事も加わり、活発な討論が行われました。また、大分・熊本間には、膝つきあわせて語り合い、「知」を通い合わせたお座敷列車「カルチャートレイン」も走りました。

両会場合わせて延べ一万余千人の人々を集めたこの会議。参加者の一人ひとりがこれを契機に何かを感じ吸収し、それを具体的な方たちにあらわそうと意欲を燃やし始めたとき、きっとすばらしい真価を發揮するのではないだろうか。



熊本パワーの源「肥後の猛婦」をテーマに「火の国の女性論」。



肥後ビーフの宣伝を買って出た葉祥栄・末次攝子・秋岡芳夫の各氏。



黒川氏（建築家）と米井氏（コピーライター）のユーモラスなやり取りに会場は笑いが絶えず…。



「さあ皆さん靴を脱いで上ってください。手で触れて、使い易さ、快適さを味わってください。」フェローワークショップの秋岡氏。（伝統工芸館）



地球の、日本の、そして、熊本の明日が見えた！
発見と興奮の3日間

それぞれがジャンルを越えて、自由に日本の文化・社会について討論し、交流しようという日本文化デザイン会議。「新・コスモス感覚」をメインテーマに、熊本・大分両県にわたって開かれました。熊本会場では、市民や学生が多数参加。十月二十四日から二十六日の三日間、県立劇場を中心に県民の「知」が騒ぎました。

「肥後の猛婦」といわれている地元女性がテーマになった「火の国の女性論」。豊富な水に恵まれた熊本の産業の生かし方を考える「焼酎とCO₂水を考える」。『ボディ&イマジネーション』など多種多様なテーマが目白押し。特に、日下塾や黒川塾に見るようなリラックスモードの座学講、アポロ15号パイロットで「月面着陸」を果たしたJ・アーウィン氏を交えた「宇宙回想」など著名人との心触れ合う交流に参加者は大感激。



大分・熊本両会場を総括する総括会議（芳賀・秋岡・堺屋・日下・合田・木島の各氏）（県立劇場）

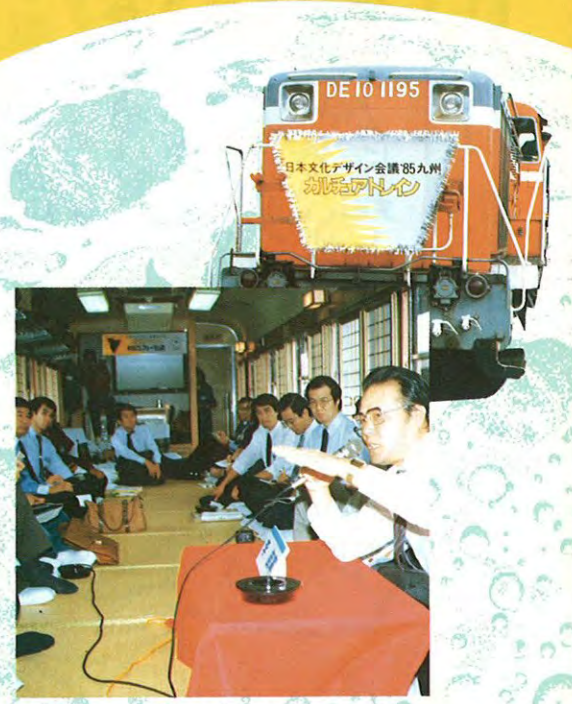


三笠宮ご夫妻をお迎えて行われた歓迎レセプション。お二方も「熊本の味」を熱心にこ賞味。（泰勝寺）



体は口ほどにものを言い——原始メディア「ボディ&イマジネーション」。

月に足形を残して帰還した「月面宙返り」の生みの親、J・アーウィン宇宙飛行士と細川知事。



膝つき合わせ「血」と「知」を通わせ語り合ったカルチャートレイン。